私がなぜ現在の科目を選んだか

「臨床検査部 病理」

信州大学医学部附属病院臨床検査部
的 場 久 典

僕が病理学の道を志した理由は，簡単に言えばそれが最も向いていると思ったからである。将来進む科を決めるにあたって，まず，自分のとりえは何かと考えてみたところ，それは真面目に勉強することであるという結論に達した。コミュニケーション能力が高いかというとそうとは言えず，体力がないとまでは言わないものの人よりとりたててあるとは言えない。病理学を専攻しようとすると，ほぼ全ての科の疾患について一定のレベルの理解を持つことが求められるが，そこに至るまでこつこつ勉強していく過程は，自分の能力を最も生かすことができるのではないかと考えた。加えて，自分は学生時代から，臨床だけでなく基礎研究にもある程度従事したいという希望があり，臨床で専攻する科の知識を研究において生かすことができればよいと考えていた。病理学で要求される分子生物学的な背景知識や，疾患に対する科目横断的な理解，免疫染色やPCR・FISHなどの技術は，基礎研究を行うにあたって要求される知識そのものといってもよく，この点でも自分に向いていると考えた。このような理由で臨床検査部に入局したわけだが，先輩・同僚の医師や周囲のスタッフにも恵まれ，たいへん充実した日々を送っている。現在は主に病理診断に従事しているが，診断能力を少しずつ着実に高めることができていると思う。将来は，学生時代から考えていたとおり，診断だけでなく基礎研究の分野にも手を出すことができればよいと考えているが，当面は専門医を取得することが課題であるので，それを第一の目標に据えつつ，他の面についてもできるだけ希望をかなえたいと思う。あと，そろそろ自分も後輩を指導していくことを考える時期であるので，その点に関しても少しずつ貢献できればと思う。

（信大平21年卒）

私がなぜ現在の科目を選んだか

「脳神経内科，リウマチ・膠原病内科」

信州大学医学部内科学第三講座
小 林 千 夏

当科は私が初期研修をスタートした診療科でした。お世話になった3カ月はとても短く，一般的な業務，手技，病棟の流れを把握することだけで精一杯で，専門性の高い神経内科疾患や膠原病患者さんの診療を習得するまでは至りませんでしたが，このとき病棟にいた患者さんたちの病態の多彩さに驚きを覚えました。人工呼吸器管理ひとつを取り上げても，てんかん重積コントロール，間質性肺炎の悪化，筋萎縮性側索硬化症患者における呼吸不全への緊急対応など，初期研修を開始したばかりの私にとってはなかなかハードな内容だったように思います。

しかしながら診療の根本にあるのは，脳神経内科領域も膠原病内科領域も詳細な病歴聴取，身体診察といった内科の基本であり，初期研修のスタートに際してこのような診療を学べたことは有意義であったと思います。

多くの研修医が思うことと思いますが，その後ローテーションさせていただいたどの科も面白く勉強になることばかりで，研修が進行するに従ってどの科を選択したものかどんどんわからなくなっていきました。自分がいわゆる臓器別診療には向いていないと自覚することだけはできたため，内科で幅広くみられるどこか……とぼんやりと考えましたが決められず，入局決定時期はかなり遅くなりました。最終的には，池田教授の最後まで熱心なお声がけと，多彩な症例の記憶で決めた，というところです。

「いろいろな症例がみられるかも」と深い考えもなく決めましたが，実際きわめて「いろいろな」症例を経験できています。わかりやすいところでは，特定疾患治療研究事業対象疾患の多くが当科を受診されます。「いわゆる難病」と説明されてしまうこともありますが，多数の疾患でその概念，病態，治療等日々進歩があり，発展著しい領域です。出来る限り多くの知識を吸収し，診療に生かしていきたいと思います。

（信大平19年卒）